

■■ 平成31年1月31日（木）～2月11日（月・祝） ■■

雪まつり、つどいむ会場に80万3千人。大盛況で閉幕



栄東の地域力が“雪まつり”に貢献

第70回さっぽろ雪まつりは、2月11日、つどいむ会場に過去最高の80万3千人を迎えて閉幕しました。

子ども達の健全育成と魅力や活力あふれるまちづくりを目指した「栄東地区子ども未来会議」（代表：永淵宏 栄東連合町内会長。56団体で構成）は、11年前から観光客に歓迎とおもてなしの気持ちを伝えるため、会場入口にウェルカム雪像を制作し、地下鉄栄町駅では「ようこそ栄町へ」という横断幕を掲げて、シャトルバス乗り場の案内などを実施してきました。

今年も、「ピカチュウ」と「招き猫」や108基の雪だるまを制作するなど、地域を挙げて温かく来場者をお迎えしました。これは観光客の皆さんにも大いに評価いただいております。雪まつり来場者増加の一翼を担っているものと言えます。

事業には、延400名もの連合町内会や単位町内会の役員、青少年育成委員会、地元企業などの方々に参加いただきました。そのお一人おひとりの力が、温かい心が結集されて大盛況につながっています。



早朝メンテナンスで最良の雪像に

ウェルカム雪像は、1月27日に下絵書きや墨付けなどの準備を行い、28日・29日に約200名の方々に完成させました。

29日には栄緑小学校2年生45名も雪だるまづくりに参加し、同校の全学年が手分けして作成したメッセージカードを下げ、歓迎に花を添えていました。雪だるまの表情は一つひとつ個性が豊かで、海外の方々からは口々に「cute（可愛い）」との声がかかっていました。

また、両日の制作だけではなく、期間中は厳しい寒さや吹雪の日も、早朝から雪を払い、傷んだ雪像の修復をするなどのメンテナンスを行っていました。ウェルカム雪像が、つど一む会場のどの雪像よりも輝いていたのは、地域の方々が目に見えない活動が支えてくれたからです。

栄町駅でおもてなしの横断幕が歓迎

雪まつり期間中、地下鉄栄町駅の改札前では、メンバーが交代で横断幕を掲げて観光客を歓迎していました。

同駅からはつど一む会場までのシャトルバスが運行されており、その道案内にも一役かかっていました。

地下鉄が到着するたびに、大勢の観光客が降り立ちましたが、海外からの観光客にも積極的にお声掛けし、親切にバス乗り場へ誘導していました。

語学が苦手なメンバーでは身振り手振りの案内もありましたが、心のこもった歓迎は言葉の壁を超えて、海外客にも大きな感動を与えたことでしょう。



海外客にも大人気の撮影スポットに

つど一む会場入り口に設置したウェルカム雪像は、雪まつりの海外客にも大人気でした。「ようこそ栄町へ」と題した雪像前では多くの方が足を止めて記念撮影し、「雪だるまに囲まれ、ここでは誰もが幸せです」「雪まつりに行くことが私の願い、白い雪を見て本当に幸せ！」などというコメントとともに SNS で世界に向けて発信していました。今年で11回目を迎えたこの取り組みは、つど一む会場になくてもならない冬の風物詩として定着したと言えそうです。

